

第7回 定住自立圏構想研究会 議事要旨

【開催日時等】

- 開催日時：平成20年4月25日（金）18：00～19：30
- 場 所：総務省8階 第1特別会議室
- 出席者：佐々木座長、小西座長代理、大西委員、小田切委員、梶井委員、田中委員、辻委員、牧野委員
薄井委員（厚生労働省政策統括官）、中條委員（農林水産省農村振興局長）、榊委員（国土交通省総合政策局長）
増田大臣、瀧野事務次官、岡本自治行政局長、岡崎大臣官房総括審議官、中田政策統括官、門山大臣官房審議官
事務局：山崎大臣官房参事官、境参事官

【議題】

- (1) 定住自立圏構想研究会 報告書（素案）等
- (2) 意見交換

【配付資料】

- 資料 定住自立圏構想研究会 報告書（素案）
- 参考 定住自立圏構想研究会（第1～6回）における主な意見（概要）

【事務局説明】

- 事務局より、資料に基づき説明。

【意見交換（概要）】

- 構想の理念を伝えるには、新しい価値を定義し、価値観を転換させる必要がある。
- 課題の共有と解決のため、国・地域・個人がそれぞれ行うべきことを明確にして、足並みをそろえることが重要。
- 圏域内外をつなぐ地域密着のコーディネーターの役割は重要。
- 地方圏への人の流れをつくり出すため、東京圏からポンプのように人を押し出す仕組みが必要。ポータルサイトの開設や窓口相談、大学との連携などにより情報発信してUターンを促す仕組みが必要。
- 協定は、地域の状況によって様々な形があり得る仕組みとしておくことが望ましい。
- 定住のためには雇用や産業が特に重要である。
- 意欲ある民間の担い手が質の高いまちづくりに取り組むことを促進する必要がある。
- 中心市と同様に、合併市町村の中心部も全体のマネジメントを担う自覚を持つべき。

- 地方の文化や歴史は日本の宝であることを重視すべき。
- 財政的支援だけでなく人の派遣等の支援もしっかり行う必要がある。
- 人材は外から来てもらうだけでなく、圏域独自で育成に努めることも重要。
- 医療は、遠隔医療だけでなく医師等の配置やネットワーク化も重要。
- 消防や救急で定住自立圏
- 定住自立圏を長い目で考えた場合、土地利用について市町村が責任を持って取り組めることが重要。